# 構成案ができたら記事は勢いで書け！細かい修正は後回しでOK

自分が書いた文章になんとなく違和感がある……。

なんとか記事を読みやすくしたいけど、こんな調子じゃ全然記事が書き終わらないよ

細かい表現なんて後回しでOKです。

むしろ適当に書くくらいでちょうどいいとすら言えます

私が記事を書くときも、最初は細かいことを気にせず勢いだけで書き上げています。

スピードと質を両立するなんてなかなか難しい話です。

まずはスピード重視で記事を書き、見直す段階で少しずつ磨き上げていきましょう。

この記事では、記事は勢いよく書くべき理由と実践のコツを紹介します。

実際にこの記事を見直す前のバージョンもお見せしますので、ぜひ参考にしてください。

記事を書く前に、まずは構成案を用意しておきましょう。

構成案の作り方については↓の記事で解説しています。

【構成案の記事】

## 勢いで記事を書くべき３つの理由

### 1.無駄に迷う時間を減らせるから

たった1つの文章を何度も書き直したり、何度も記事の最初から読み直したりしてしまっていませんか？

ゆっくりじっくり進めていると、どうしても細かい部分に目が行きがちです。

特に完璧主義な人はこうした状況に陥ることが多いです。

迷っている時間や悩んでいる時間はハッキリ言って無駄です。

そもそも、細かい部分を気にしているのは書き手だけ、なんてパターンが多いです。

あなたがこれまで読んだ本を開いてみてください。

よくよく見てみると、ひらがなが連続していたり句読点の位置に違和感があるなど、本当にこれでいいのか？と思う部分が見つかるかと思います。

しかし、その本を読むときは別に気になっていなかったわけですよね。

一つ例を挙げましょう。

実際に私が過去に読んだ本の一部を以下に引用します。

【引用】

じっくり見れば〇〇の部分や〇〇の部分が気になりませんか？

しかし、私がこの本を読んだときはまったく気になりませんでした。

つまり、自分が記事を書くときも同じような表現をしても問題ないということです。

### 2.記事を提出するまで何度でも修正できるから

「修正が必要ない」なんて言うつもりはありません。

私が言いたいのは「ちょっとくらいおかしなところがあっても後から直せばそれでいい」という話です。

誤字脱字や細かい表現を直すくらいなら、最終的に見直しをする段階ですぐに直せますよね。

全体的に修正しないといけない場合は、そもそも構成案に問題があります。

詳しくは↓の記事をどうぞ。

【構成案の記事】

まずは大まかに仕上げるべきというのは、なにも記事に限った話ではありません。

絵や彫刻だってまずはざっくりと形をつくりますし、事業の計画を立てるときにもまずは年間計画を立て、これにそって月間計画や週間計画をねっていくはずです。

いきなり100点満点の記事を書くことなんてできません。

まずは50点の記事を仕上げることを目標にしましょう。

### 3.クライアントも細かい部分はあまり気にしていないから

私もこれまでクライアントとして記事を発注してきました。

この経験からいうと、納品された記事に修正が必要になるのは以下の2パターンです。

そもそも構成に問題がある

誤字脱字や細かい表現のミス

問題になるのは前者です。

実は意外と後者の修正は気になりません。

なぜなら、ちょっとした修正で済む記事ならクライアントには大した手間がかからないからです。

もちろんノーミスで納品するのが理想ではありますが、小さなミスは次から気をつければいいだけの話です。

## 記事を勢いで書くコツ

勢いで書くといっても、どうしても細かい部分が気になる人もいるでしょう。

そんなときは記事を書くときの自分なりのルールを作りましょう。

例えば、私の場合は以下のようなルールを決めています。

語尾の連続は気にしない

明らかな入力ミスは直す

言葉が分からない部分は〇〇で代用する

などなど

ルールを決めておけば、今直すべきものなのか後で直すべきものかが明確になります。

そのため、これで迷う時間がなくなります。

慣れるまでは紙にルールを書き出し、パソコン近くの壁などに張っておくと良いでしょう。

## 勢いで書いた記事の例

実際にこの記事を勢いで書いた段階では以下のようになっています↓

【勢いバージョンのダウンロードリンク】

「え？こんなんでいいの？」と思うかもしれません。

しかし、できたての記事なんてこんなものです。

まずは騙されたと思って勢いで書いてみてください。

完璧主義がなくなれば記事を書くスピードがぐんと上がります。